

リハビリテーション科



1. リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション医学は、障害を診る医学です。

Rehabilitation とは、re-（ふたたび）-habilis-（適した：人間にふさわしい）-ation（状態にする）-という意味があります。

急性期リハビリテーションと回復期リハビリテーションの2種類の業務があります。

急性期では、他科入院中で院内紹介された患者（コンサルテーション）を中心に診療。回復期ではリハ目的で入院した患者の診療をします。

右上図は、日本リハビリテーション医学会のシンボルマークです。手で人を支えるイメージで、アルファベットの“R”を表しています。

右下図では、リハビリテーション医学とは、「機能回復」・「障害の克服」・「活動を育む」の3つのキーワードで診療にあたっていることを説明しています。



日本リハビリテーション
医学会

2. プログラムの目的と特徴

愛媛県リハビリテーション研修プログラムでは、愛媛大学医学部附属病院を基幹病院とし、9の連携病院とともに、リハビリテーション専攻医の指導にあたっています。

新専門医制度では、2022年より1名、2023年より1名、2025年より1名、2026年より1名の専攻医を登録しています。

日本リハビリテーション医学会が定めた認定施設にて3年間の研修を受けますが、3年間の研修のうち、基幹施設（愛媛大学医学部附属病院）にて6か月以上、回復期リハビリテーション病棟を有する施設で6か月以上の研修が必要です。

また、ダブルボードでの専攻医の受け入れもしています。先に内科・外科・小児科・整形外科の基本領域専門医を取得後に、リハビリテーション専門医の取得もできます。この場合、専攻医登録後、カリキュラム制の元、認定施設にて2年間の研修後、専門医試験を受験できます。取得の要件は、2年間の研修以外は、プログラム制と同じです。



「活動」を育む医学

3. 経験目標

研修中、以下の9つの疾患群の診療経験が必要です。

- ①脳血管障害・頭部外傷 ②運動器疾患・外傷 ③外傷性脊髄損傷
- ④神経筋疾患 ⑤切断 ⑥小児疾患 ⑦リウマチ性疾患 ⑧内部障害
- ⑨その他（摂食嚥下障害、不動・廃用による合併症、がん、骨粗鬆症、疼痛など）

3年間で、すべての疾患の経験ができます。

専門医受験の他の要件：

- 経験した上記疾患のレポートを提出。
- 日本リハビリテーション医学会学術集会などでの発表2題。

4. 指導医と指導体制

愛媛大学附属病院リハ科（基幹施設）	鴻上 繁・間島 直彦・木谷 彰岐	急性期
松山赤十字病院リハ科	田口 浩之	急性期
西条市民病院	首藤 貴	回復期
伊予病院	藤田 正明・高橋 真司	回復期・小児
ジェイコー宇和島病院	渡部 昌平	整形・リウマチ・回復期
松山リハビリテーション病院	木戸 保秀	回復期
おおぞら病院	上甲 隆敏	回復期
HITO病院	森野 忠夫	整形・脊椎整形・回復期
四国がんセンター	杉原 進介	腫瘍整形・がんリハ
旭川荘南愛媛病院	高橋 義仁	整形・小児

【愛媛大学医学部附属病院】リハビリテーション科スタッフ

科 長：高尾 正樹（整形外科教授兼任）
 指導医：鴻上 繁（プログラム責任者、リハ科専従医）
 間島 直彦（地域医療再生学教授、股関節外科）
 木谷 彰岐（整形外科准教授、腫瘍整形）
 PT：17名 OT：5名 ST：5名 事務：1名



痙攣に対するボツリヌストキシンの施注

5. 研修に関する行事

愛媛大学医学部附属病院での週間スケジュール

	月	火	水	木	金
AM	整形カンファレンス 新患診察	新患診察	新患診察 嚥下外来	整形合同カンファ 新患診察	神経内科カンファレンス 新患診察
PM	整形カンファ・総廻診	装具診 ロボットリハビリ	嚥下検査	書類診察 小児診察	小児カンファレンス

6. 専門研修修了後について

専門医取得後は、急性期リハビリテーション施設または回復期リハビリテーション病棟を有する施設（リハ専門病院）での勤務を行い、3年後に、指導医の資格を取得します。

指導医がいる施設が、研修病院（基幹施設または連携施設）になります。

7. 専門研修の問い合わせ先

担当：鴻上 繁（愛媛大学医学部附属病院リハビリテーション科）
 TEL：089-960-5723（リハ科外来）
 TEL：089-960-5343（整形外科医局）
 E-mail：kogami.shigeru.xj@ehime-u.ac.jp



ロボットリハビリテーション
 (HAL: hybrid assistive limb)
 による歩行訓練